

中央区内景气动向调查

令和元年6月调查结果

令和元年7月30日

中央区

総 括

令和元年6月の動き

中央区内における6月の現状判断D Iは合計で43.0と、前回調査から6.0ポイント低下している。景気の先行き判断D Iは合計で47.5と前回調査から1.5ポイント低下している。

図表 景気の現状判断D I、先行き判断D I（合計）

| (D I) | 平成31年 | | | 前回調査 からの変化 |
|----------|-------|------|------|---------------|
| | 2月 | 4月 | 6月 | |
| 合計 | | | | |
| 現状判断D I | 48.0 | 49.0 | 43.0 | (-6.0) |
| 先行き判断D I | 46.0 | 49.0 | 47.5 | (-1.5) |

目 次

| | |
|----------------------|------|
| 調査の概要 | 1 頁 |
| 調査結果 | |
| 1 景気の現状に対する判断 | 2 頁 |
| 2 景気の先行きに対する判断 | 3 頁 |
| 3 現在の景気水準に対する判断（参考） | 4 頁 |
| 4 判断理由 | |
| (1) 景気の現状に対する判断理由着目点 | 5 頁 |
| (2) 景気の現状に対する判断理由 | 6 頁 |
| (3) 景気の先行きに対する判断理由 | 8 頁 |
| （別紙）調査客体の分野・業種別人数構成 | 10 頁 |
| 中央区内景気動向調査 調査票 | 11 頁 |
| (1) 家計動向関連 | |
| (2) 企業動向関連 | |

調査の概要

1 調査の目的

中央区内において景気に関連の深い動きを観察できる立場にある人々の協力を得て、地域の景気動向を迅速かつ的確に把握し、効果的な施策を実施するための基礎資料とすることを目的とする。

2 調査の客体

中央区内の家計動向関連、企業動向関連で、代表的な経済活動の動向を敏感に反映する現象を観察できる業種において、適当な職種の中から選定した50人を調査客体とする。調査客体の分野・業種別人数構成については、別紙を参照のこと。

3 調査事項

- (1) 景気の現状に対する判断（方向性）
- (2) (1)の理由
- (3) (2)の追加説明及び具体的状況の説明
- (4) 景気の先行きに対する判断（方向性）
- (5) (4)の理由
- (参考) 景気の現状に対する判断（水準）

4 調査月及び調査期間等

調査月は年6回の隔月に当月時点で実施、調査期間は調査月の中旬約1週間で、令和元年6月調査の調査票発送は6月7日（金）、回答期限は6月18日（火）である。

5 調査機関

本調査は中央区が主管し、委託先である株式会社日本経済研究所を取りまとめ調査機関として実施したものである。

6 有効回答率

調査客体50名に対し、有効回答客体は50名、有効回答率は100%であった。

7 DIの算出方法

景気の現状、または、景気の先行きに対する5段階の判断に、それぞれ以下の点数を与え、これらを各回答区分の構成比（%）に乗じて、DIを算出している。

| | | | | | |
|----|--------------|------------------|--------------------------|------------------|--------------|
| 評価 | 良くなっている | やや良くなっている | 変わらない | やや悪くなっている | 悪くなっている |
| | 良くなる (良い) | やや良くなる (やや良い) | 変わらない (どちらとも いえない) | やや悪くなる (やや悪い) | 悪くなる (悪い) |
| 点数 | + 1 | + 0 . 7 5 | + 0 . 5 | + 0 . 2 5 | 0 |

1 景気の現状に対する判断

3か月前と比較しての中央区内における現状判断DIは合計で43.0と、前回調査から6.0ポイント低下している。分野別にみると、家計動向関連DIは44.0と、前回調査から10.0ポイント低下し、企業動向関連DIは42.0と、前回調査から2.0ポイント低下している。構成比では、「やや悪くなっている」と回答した人の割合が18.0ポイント増加し、「やや良くなっている」と回答した人の割合が10.0ポイント減少した。

図表1-1 各分野における景気の現状判断DIの推移表

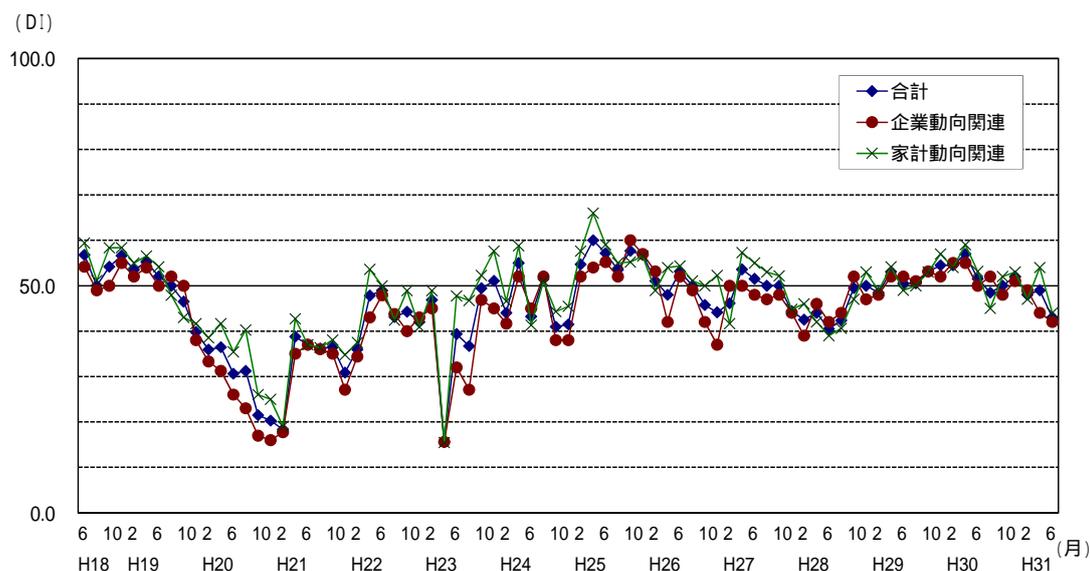
| (DI) | 平成31年 | | | |
|--------|-------|------|------|---------|
| | 2月 | 4月 | 6月 | (変化幅) |
| 合計 | 48.0 | 49.0 | 43.0 | (-6.0) |
| 家計動向関連 | 47.0 | 54.0 | 44.0 | (-10.0) |
| 小売関連 | 37.5 | 53.6 | 48.2 | (-5.4) |
| 飲食関連 | - | - | - | (-) |
| サービス関連 | 64.3 | 50.0 | 35.7 | (-14.3) |
| 住宅関連 | - | - | - | (-) |
| 企業動向関連 | 49.0 | 44.0 | 42.0 | (-2.0) |
| 製造業 | 40.0 | 35.0 | 30.0 | (-5.0) |
| 非製造業 | 51.3 | 46.3 | 45.0 | (-1.3) |

(備考)家計動向関連のうち、飲食関連、住宅関連については、サンプル数の関係で非公表としている。

図表1-2 構成比

| 年 | 月 | 良く | やや良く | 変わらない | やや悪く | 悪く |
|-------|---|-------|---------|--------|--------|--------|
| | | なっている | なっている | | なっている | なっている |
| 平成31年 | 2 | 2.0% | 20.0% | 50.0% | 24.0% | 4.0% |
| | 4 | 0.0% | 28.0% | 42.0% | 28.0% | 2.0% |
| | 6 | 0.0% | 18.0% | 36.0% | 46.0% | 0.0% |
| (変化幅) | | (0.0) | (-10.0) | (-6.0) | (18.0) | (-2.0) |

図表1-3 各分野における景気の現状判断DIの推移



2 景気の先行きに対する判断

2～3か月先の中央区内における景気の先行き判断DIは合計で47.5と前回調査から1.5ポイント低下している。分野別にみると、家計動向関連DIは50.0と、前回調査から横ばい、企業動向関連DIは45.0と、前回調査から3.0ポイント低下している。構成比では、「変わらない」と回答した人の割合が4.0ポイント減少し、「やや悪くなる」と回答した人の割合が4.0ポイント増加した。

図表2-1 各分野における景気の先行き判断DIの推移表

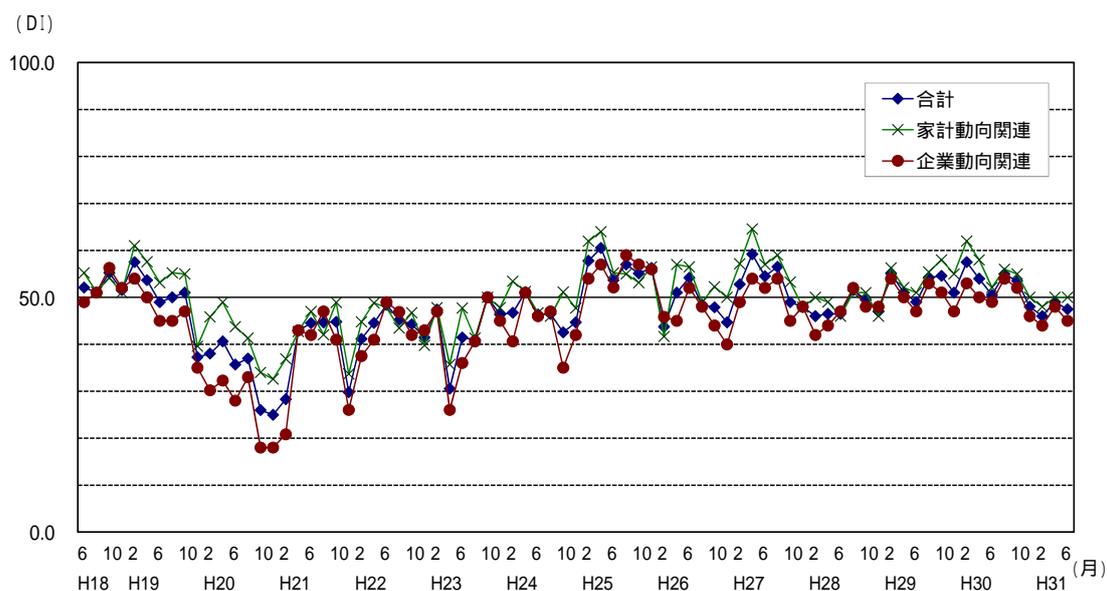
| (DI) | 平成31年 | | | |
|--------|-------|------|------|---------|
| | 2月 | 4月 | 6月 | (変化幅) |
| 合計 | 46.0 | 49.0 | 47.5 | (-1.5) |
| 家計動向関連 | 48.0 | 50.0 | 50.0 | (0.0) |
| 小売関連 | 41.1 | 50.0 | 55.4 | (5.4) |
| 飲食関連 | - | - | - | (-) |
| サービス関連 | 57.1 | 53.6 | 42.9 | (-10.7) |
| 住宅関連 | - | - | - | (-) |
| 企業動向関連 | 44.0 | 48.0 | 45.0 | (-3.0) |
| 製造業 | 35.0 | 40.0 | 25.0 | (-15.0) |
| 非製造業 | 46.3 | 50.0 | 50.0 | (0.0) |

(備考)家計動向関連のうち、飲食関連、住宅関連については、サンプル数の関係で非公表としている。

図表2-2 構成比

| 年 | 月 | 良くなる | やや良くなる | 変わらない | やや悪くなる | 悪くなる |
|-------|---|--------|--------|--------|--------|-------|
| | | | | | | |
| 平成31年 | 2 | 2.0% | 20.0% | 46.0% | 24.0% | 8.0% |
| | 4 | 4.0% | 20.0% | 46.0% | 28.0% | 2.0% |
| | 6 | 2.0% | 22.0% | 42.0% | 32.0% | 2.0% |
| (変化幅) | | (-2.0) | (2.0) | (-4.0) | (4.0) | (0.0) |

図表2-3 各分野における景気の先行き判断DIの推移



3 現在の景気水準に対する判断（参考）

現在の景気的水準自体に対する判断は、以下のとおりであった（注）。

図表 3 - 1 各分野における景気の現状水準判断D Iの推移

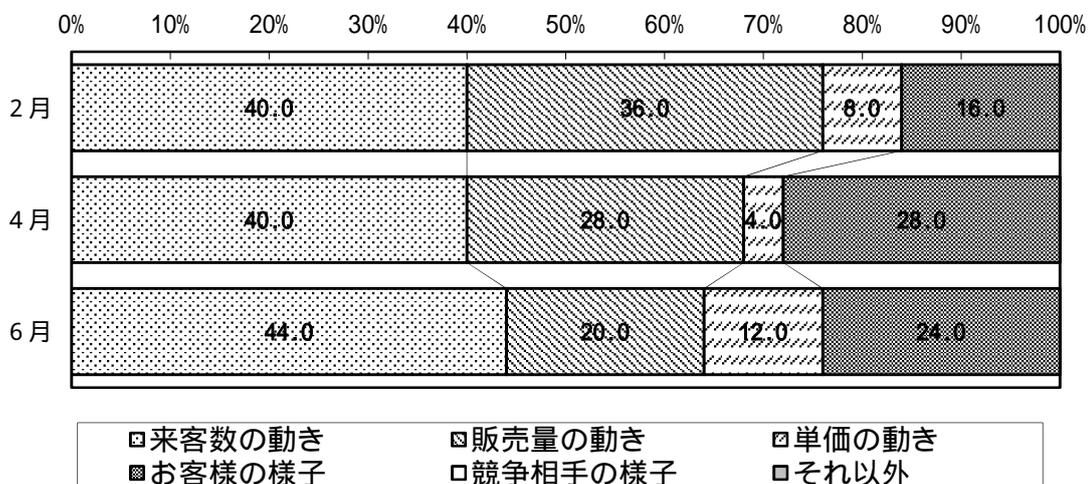
| (D I) | 平成31年 | | |
|--------|-------|------|------|
| | 2月 | 4月 | 6月 |
| 合計 | 47.0 | 49.0 | 44.5 |
| 家計動向関連 | 44.0 | 50.0 | 47.0 |
| 小売関連 | 33.9 | 46.4 | 46.4 |
| 飲食関連 | - | - | - |
| サービス関連 | 60.7 | 50.0 | 46.4 |
| 住宅関連 | - | - | - |
| 企業動向関連 | 50.0 | 48.0 | 42.0 |
| 製造業 | 35.0 | 40.0 | 45.0 |
| 非製造業 | 53.8 | 50.0 | 41.3 |

(備考)家計動向関連のうち、飲食関連、住宅関連については、サンプル数の関係で非公表としている。

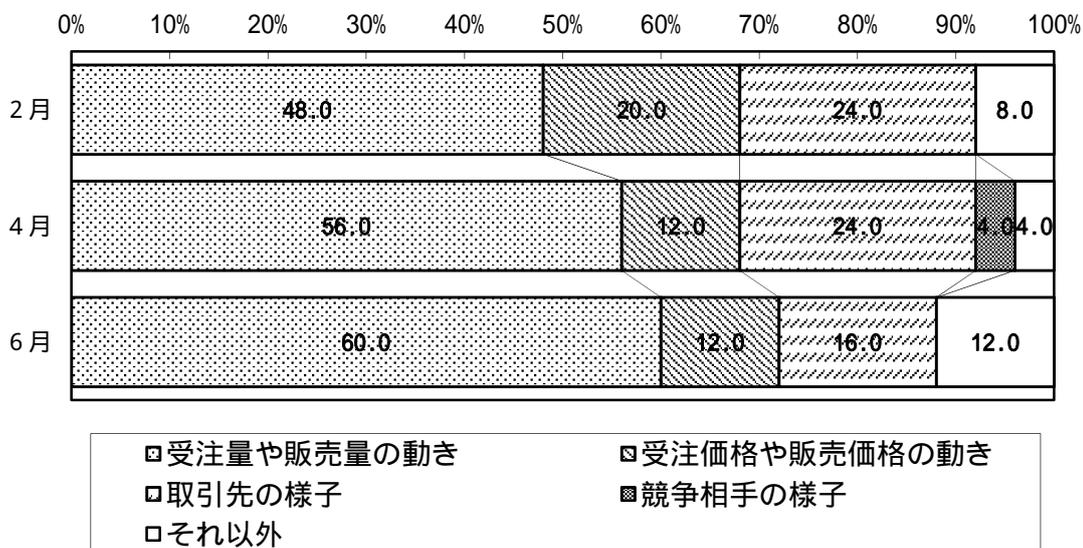
(注)景気の現状をとらえるには、景気の方加性に加えて、景気的水準自体について把握することも必要と考えられることから、参考までに掲載するものである。

4 (1) 景気の現状に対する判断理由着目点

家計動向関連



企業動向関連



注) 本グラフは景気の現状に対する判断理由着目点の構成比を示している。
割合が0%の場合、数値は表記していない。

4 (2) 景気の現状に対する判断理由

(- : 回答が存在しない、 : 主だった回答等が存在しない)

| 分野 | 景気の現状判断 | 業種・職種 | 判断の理由 | 追加説明及び具体的状況の説明 |
|----------------|-----------|--------------------------|--------------|--|
| 家計 動向 関連 | 良くなっている | - | - | - |
| | やや良くなっている | 百貨店(総務担当) | 販売量の動き | ・関東地方における大雨の影響などあったものの、ラグジュアリーブランドを中心とした高額品売上などが引き続き伸びている。免税売上も順調である。 |
| | | 百貨店(総務経理担当) | 来客数の動き | ・話題の新店舗により、土日は人があふれている。 |
| | 変わらない | 一般小売店[文具](販売担当) | 来客数の動き | ・外国人客は増加しているものの、日本人客が減少している。 |
| | | 百貨店(総務担当) | お客様の様子 | ・消費税増税前の駆け込み需要があってもいい時期に入っているが、その兆候はまだない。 |
| | | 百貨店(広報担当) | お客様の様子 | ・購買力の高い客層の消費マインドは引き続き好調ながら、中間層以下のマインドは上がってきていない。改元に連動した盛り上がりも短期的な押し上げにとどまっている。 |
| | | 衣料品専門店(店長) | 来客数の動き | ・ゴールデンウィーク中の来客数は前年並みとなったが、連休明けに来客数が落ち込み、3か月前と同様に日本人客、外国人客共に減少している。 |
| | | 一般レストラン(経営者) | お客様の様子 | ・例年この時期は天候の影響で客が少なくなる。 |
| | | 通信会社(営業担当) | 販売量の動き | ・春先の移転時期も過ぎ、前年並みの販売量に落ち着いている。 |
| | やや悪くなっている | 一般小売店[事務用品](営業担当) | 来客数の動き | ・1年を通して下降する時期ではあるが、来客数が10%近く落ちている。 |
| | | 高級レストラン(経営者) | お客様の様子 | ・予約以外の来客数が極端に減少している。ゴールデンウィークの10連休明けの影響と推測しているが、6月に入ってもその傾向は続いている。また、予約も2~3名での個室希望が非常に多く、来客数減から平均売上額に届かない。 |
| | | 一般レストラン(経営者) | 来客数の動き | ・市場移転から半年が経ち、少し落ち着いてきている。10連休の前半は良かったが、後半から月末までは下降線で、結局前年同月比で売上が減少している。世間の景気はかなり悪いのではないが。 |
| | | 都市型ホテル(経営者) | 来客数の動き | ・一時期はホテル不足といわれていたが、ここ中央区では過剰気味となっている。それに加え、政府からの発表が、将来不安につながり、消費減速に拍車をかけている。 |
| | | 旅行代理店(店長) | 来客数の動き | ・ゴールデンウィークの10連休の反動がある。 |
| | | その他レジャー施設(経営者) | 来客数の動き | ・5月の長い連休は、客の懐を寂しくし、財布のひもを固くしている。 |
| 悪くなっている | | - | - | - |
| 企業 動向 関連 | 良くなっている | - | - | - |
| | やや良くなっている | 建設業(営業担当) | 受注量や販売量の動き | ・消費税増税前の駆け込み需要の関係で仕事量が増加している。 |
| | | 不動産業(企画担当) | 受注量や販売量の動き | ・都心では引き続きオフィスビルの空室がほとんどない状況である。 |
| | | その他サービス業[ビルメンテナンス](営業担当) | 受注価格や販売価格の動き | ・見込んでいた予算額を大幅にクリアしている。3か月前と比べて金額も予算比30%程度増加している。 |
| | 変わらない | 出版業(経営者) | それ以外 | ・米中の貿易摩擦がボディブローのように日本経済をロープぎわに追い詰めることは確実である。 |
| | | 通信業(営業担当) | 受注量や販売量の動き | ・各案件が堅調に推移している。 |
| | | 卸売業[飲食料品(鮮魚)](経営者) | それ以外 | ・インバウンドが増加している。 |
| | | 卸売業[機械器具](経営者) | 受注量や販売量の動き | ・前回に引き続きやや悪いままで、変わらない。 |

| 分野 | 景気の現状判断 | 業種・職種 | 判断の理由 | 追加説明及び具体的状況の説明 |
|----|-----------|-----------------|--------------|--|
| | やや悪くなっている | 出版業（営業担当） | 受注量や販売量の動き | ・雑誌広告の受注本数がかかり減ってきていることに加え、クライアントから料金についての見直し要求も出始めている。 |
| | | 印刷業・製本業（営業担当） | 受注価格や販売価格の動き | ・今までは、短納期の場合はある程度割増料金が掛かり、仕入価格が高くなっていったが、仕事量の減少から、短納期でも通常料金が適用されることが増えている。 |
| | | 輸送業（従業員） | 受注量や販売量の動き | ・定期的な受注量は増えているが、新規の受注がない。 |
| | | 卸売業〔機械器具〕（従業員） | 受注価格や販売価格の動き | ・例年と比較すると大型案件が減少しており、競争激化により受注価格も低下している。また、コストの高騰も常態化しており、利益を圧迫している。 |
| | | 卸売業〔機械器具〕（営業担当） | それ以外 | ・3か月前は受注残があり、売上を上げることができたが、今月は受注残がなく、売上額が少ない。 |
| | | 悪くなっている | - | - |

4 (3) 景気の先行きに対する判断理由

(- : 回答が存在しない、 : 主だった回答等が存在しない)

| 分野 | 景気の先行き判断 | 業種・職種 | 景気の先行きに対する判断理由 |
|----------------|-------------|--|--|
| 家計 動向 関連 | 良くなる | - | - |
| | やや良くなる | 百貨店(総務担当) | ・高額品売上が順調に推移していることに加え、今後の消費税増税を意識した駆け込み需要が見込まれる。 |
| | | 百貨店(総務経理担当) | ・話題の大型店舗のイトイン、ビューティー分野の売場、新規ホテルなど、界限に活気があふれ、インバウンドも十分期待できる。 |
| | | 百貨店(広報担当) | ・8月頃から消費税増税前の駆け込み需要で中間層の動きが活発化すると予測している。特に、値上げ幅が高く資産価値も高い高額商品、化粧品などの消耗品にニーズが集まるとみている。ただし、前回の増税時より動きは小幅と予測している。 |
| | | スーパー(店長) | ・2019年9月まではやや上向くが、10月以降は確実に下がる。 |
| | | スーパー(店長) | ・消費税増税前の駆け込み需要でやや良くなる。 |
| | | コンビニ(店長) | ・若干ではあるが、買上点数が上がっており、客の様子にも活気がみられる。 |
| | | 一般レストラン(経営者) | ・修学旅行生は落ち着くが、これから7~8月は遠方から観光客が来てくれるので、今よりは忙しくなる。 |
| | 変わらない | 一般小売店[文具](販売担当) | ・外国人客の増加に対して、日本人客の減少が大きい。 |
| | | 一般小売店[食品](店長) | ・市場移転の影響か、今年に入ってから交通量、人通りが少ないように感じる。近くにコンビニが開店したことも少し影響しているようである。 |
| | | 衣料品専門店(店長) | ・例年よりもバーゲンのスタートが早まってきている。その分、秋の立ち上がり及早まればいいのだが、そう簡単にはいかない気がする。 |
| | | 高級レストラン(経営者) | ・近隣商店街では飲食店が最も多いが、全体的な傾向として、飲食への消費が減少している。インバウンドも一服の状況とみている。 |
| | | 通信会社(営業担当) | ・現在、起爆剤となり得る景気対策が見当たらないので、変化はみられない。 |
| | | 競馬場(職員) | ・政府の発言等の影響により、客が無駄な消費をしないという姿勢は継続するのではないかと。 |
| | | その他レジャー施設(経営者) | ・5月の長い連休は収入を少なくし、遊びや休養にお金を使い過ぎ、今月も尾を引いている。当社のような小規模事業所にとっては、長い連休は迷惑である。 |
| | やや悪くなる | 一般小売店[和菓子](経営者) | ・消費税増税直前は、10%になってしまう物を購入する方向へ動いてしまうように思える。 |
| | | 一般小売店[事務用品](営業担当) | ・もちろん時期的な側面もあるが、それにも増して上向き気配が全くない。東京オリンピック前の落ち込みが既にやってきた感じがする。 |
| | | 一般小売店[靴](店長) | ・米中の貿易摩擦による経済への影響で、やや悪くなる。 |
| | | 高級レストラン(副店長) | ・暑さがピークになってくると高齢客の足が遠のく傾向がある。例年7~8月はそうなりやすい。 |
| | | 一般レストラン(経営者) | ・例年、飲食関係は悪い。前年のような猛暑にならないことを期待する。 |
| | 都市型ホテル(経営者) | ・世の中は東京オリンピックムードといわれているが、現実的ではない。政府発表のデータは実体とかけ離れており、信用できない。 | |
| | 旅行代理店(店長) | ・ゴールデンウィークの10連休の反動でやや悪くなる。 | |
| | 通信会社(営業担当) | ・販売量が伸び悩んでおり、改善する見込みもない。 | |
| | 悪くなる | - | - |
| 企業 動向 関連 | 良くなる | その他サービス業[ビルメンテナンス](営業担当) | ・東京オリンピックイヤーまでは順調にいく。消費税増税前の駆け込み需要もかなり考えられる。 |
| | やや良くなる | 不動産業(企画担当) | ・オフィスビルでは賃料の増額改定の流れが続いており、空室が出ても館内テナントの増床ですぐに埋まっている。 |
| | | 卸売業[機械器具](営業担当) | ・消費税増税前に納入を考えているところが多く、前倒しで売上が上がると予想している。 |
| | | その他サービス業[造園・園芸](営業担当) | ・植物、季節を感じてもらおう手伝いをしており、秋頃は紅葉やハロウィン等の分かりやすいイベント、行事があるため、結果として需要が高まる時期である。 |

| 分野 | 景気の先行き判断 | 業種・職種 | 景気の先行きに対する判断理由 |
|----|----------|--------------------------|---|
| | 変わらない | 建設業（経営者） | ・参議院議員選挙の結果及び米中貿易戦争の経過次第で急速に変化するかもしれないが、現時点では変わらない。 |
| | | 建設業（営業担当） | ・今後の受注次第で変わるかもしれない。 |
| | | 建設業（営業担当） | ・東京オリンピック関連工事と消費税再増税前の仕事量の受注が終わり、変化なしと予想している。 |
| | | 金融業〔証券〕（営業担当） | ・不確実性が高まっているが、まだ景気に与える影響はないように思われる。 |
| | | 卸売業〔繊維・衣服等〕（営業担当） | ・取引先の仕入が低調で、消費税再増税まで様子見しているようである。 |
| | | 卸売業〔飲食料品（鮮魚）〕（経営者） | ・インバウンドは増えているが、夏に向かうので、野外の場外市場は暑さで客足が幾分減る。 |
| | | 卸売業〔機械器具〕（経営者） | ・やや悪い状態がこの先も続くものとみている。 |
| | | 卸売業〔機械器具〕（従業員） | ・当社の主力業界の事業量は大きく変わらないが、慢性的な人手不足で、他業界との人材争奪が激しくなっているため、事業そのものを見送る案件が出てくる可能性がある。 |
| | | 経営コンサルタント | ・梅雨や気温上昇により、人が外に出にくい環境になる。 |
| | | その他サービス業〔ビルメンテナンス〕（営業担当） | ・定期業務以外の受注量が増える傾向はみられない。 |
| | やや悪くなる | 出版業（営業担当） | ・景気動向指数が悪化し、クライアントからは量的に引き締め動きがみられ、10月の消費税再増税が悪化を加速させるのではと懸念している。 |
| | | 印刷業・製本業（営業担当） | ・10月の消費税再増税に向けて、一時的に景気が良くなると思うが、その後落ち込むことは、歴史的観点からも目に見えている。 |
| | | 建設業（経営者） | ・全体的に仕事量が減少傾向との印象がある。人手不足の感も否めない。 |
| | | 輸送業（従業員） | ・定期的な仕事量は前月比予定通りの受注量だが、新たな仕事が入ってこない。 |
| | | 通信業（営業担当） | ・米中関係、イラン制裁が悪影響を及ぼすと考えられる。 |
| | | 金融業〔証券〕（営業担当） | ・極端な変動はないと考えるものの、取引先企業の足許の状況を見ると、米中摩擦に起因する一部商品の取扱懸念や、半導体市況の下方転換により、明らかに経営環境へのマイナス影響がみられている。 |
| | 悪くなる | 出版業（経営者） | ・東京オリンピックの後は、建設需要の反動減などで不景気に見舞われることが確実である。 |

(別紙) 調査客体の分野・業種別人数構成

| 分野 | 業種 | 調査客体数 (人) |
|--------|-------------------------|--------------|
| 合計 | | 50 |
| 家計動向関連 | | 25 |
| | 小売関連 | 14 |
| | 商店街・一般小売店 | 5 |
| | 商店街代表者 | 0 |
| | 一般小売店経営者・店員 | 5 |
| | 百貨店 | 4 |
| | 百貨店売場主任・担当者 | 4 |
| | スーパー | 2 |
| | スーパー店長・店員 | 2 |
| | コンビニエンスストア | 1 |
| | コンビニエリア担当・店長 | 1 |
| | 衣料品専門店 | 2 |
| | 衣料品専門店経営者・店員 | 2 |
| | 家電量販店 | 0 |
| | 家電量販店経営者・店員 | 0 |
| | 乗用車・自動車備品販売店 | 0 |
| | 乗用車・自動車備品販売店経営者・店員 | 0 |
| | その他小売店 | 0 |
| | 住関連専門店経営者・店員 | 0 |
| | その他専門店経営者・店員 | 0 |
| | その他小売の動向を把握できる者 | 0 |
| | 飲食関連 | 4 |
| | 高級レストラン経営者・スタッフ | 2 |
| | 一般レストラン経営者・スタッフ | 2 |
| | スナック経営者 | 0 |
| | その他飲食の動向を把握できる者 | 0 |
| | サービス関連 | 7 |
| | 旅行・交通関連 | 3 |
| | 観光型ホテル・旅館経営者・スタッフ | 0 |
| | 都市型ホテル・旅館経営者・スタッフ | 2 |
| | 旅行代理店経営者・従業員 | 1 |
| | タクシー運転手 | 0 |
| | 通信会社 | 2 |
| | 通信会社社員 | 2 |
| | レジャー施設関連 | 2 |
| | 観光名所・遊園地・テーマパーク職員 | 0 |
| | ゴルフ場経営者・従業員 | 0 |
| | パチンコ店経営者・従業員 | 0 |
| | 競輪・競馬・競艇場職員 | 1 |
| | その他レジャー施設職員 | 1 |
| | その他サービス | 0 |
| | 美容室経営者・従業員 | 0 |
| | その他サービスの動向を把握できる者 | 0 |
| | 住宅関連 | 0 |
| | 設計事務所所長・職員 | 0 |
| | 住宅販売会社経営者・従業員 | 0 |
| | その他住宅投資の動向を把握できる者 | 0 |
| | その他家計の動向を把握できる者 | 0 |
| 企業動向関連 | | 25 |
| | 農林水産業従業者 | 0 |
| | 鉱業経営者・従業員 | 0 |
| | 製造業経営者・従業員 | 5 |
| | 食品製造業 | 0 |
| | 繊維工業 | 0 |
| | 家具及び木材木製品製造業 | 0 |
| | パルプ・紙・紙加工品製造業 | 0 |
| | 出版・印刷・同関連産業 | 5 |
| | 新聞業 | 1 |
| | 出版業 | 2 |
| | 印刷業・製本業 | 2 |
| | その他出版・印刷・同関連産業 | 0 |
| | 化学工業 | 0 |
| | 石油製品・石炭製品製造業 | 0 |
| | プラスチック製品製造業 | 0 |
| | 窯業・土石製品製造業 | 0 |
| | 鉄鋼業 | 0 |
| | 非鉄金属製造業 | 0 |
| | 金属製品製造業 | 0 |
| | 一般機械器具製造業 | 0 |
| | 電気機械器具製造業(精密機械を含む) | 0 |
| | 輸送用機械器具製造業 | 0 |
| | その他製造業 | 0 |
| | 非製造業経営者・従業員 | 20 |
| | 建設業 | 4 |
| | 輸送業 | 1 |
| | 通信業 | 2 |
| | 金融業 | 2 |
| | 不動産業 | 1 |
| | 卸売業 | 6 |
| | 繊維・衣服等 | 2 |
| | 飲食品 | 1 |
| | 建築材料・鉱物・金属材料等 | 0 |
| | 機械器具 | 3 |
| | その他卸売業 | 0 |
| | サービス業 | 4 |
| | 広告代理店・新聞販売店[広告] | 0 |
| | 司法書士・経営コンサルタント・会計事務所職員等 | 1 |
| | コピーサービス業 | 0 |
| | その他サービス業 | 3 |
| | その他非製造業 | 0 |
| | その他企業の動向を把握できる者 | 0 |